

Together



<http://www.shukutoku.ac.jp>

No. **223** | 2018.10.1
Autumn

教員からの

特集

提言!

学生に伝えたいこと

Cover Person

村木 玲奈さん

(コミュニケーション政策学科3年)

淑徳人

WOWOW エンタテインメント株式会社 勤務

相曾紗良亜さん

ともいきのこころ

大学教員としての学祖の活動

Campus News

知識モリモリ×健康モリモリ

色白は七難隠すというけれど。

がんばっている学生、グループ、注目のイベントなどをご紹介します。

女子柔道部 井上舞子さん、野瀬英豪監督が「国際競技大会優秀者等表彰」を受章



▲文部科学省「スポーツ功労者顕彰・国際競技大会優秀者等表彰式」にて受章された井上舞子さん(左) 野瀬英豪監督(右)

7月31日、文部科学省「スポーツ功労者顕彰・国際競技大会優秀者等表彰式」が都内で行なわれ、本学女子柔道部の井上舞子さん(経営学部経営学科4年)並びに、その指導者として野瀬英豪監督が、国際競技大会優秀者等表彰を受章しました。

これは、世界的規模のスポーツ競技会において、特に優秀な成績を取った者及びその指導に多大な貢献があった指導者を、文部科学大臣がその栄誉を讃え表彰するものです。



井上舞子さん

今回の受章は、第29回ユニバーシアード競技大会(2017年/台北)において柔道女子団体戦で全日本チームのメンバーとして優勝に貢献した井上舞子さんと、その指導者として野瀬英豪監督が選出されたものです。

このような大きい賞をいただいたのは初めてで、率直に嬉しいです。今後は日本代表として活躍できるよう、より一層頑張っていきたいです。

第8回学習支援ボランティアを実施

7月31日～8月3日、宮城県石巻市立雄勝中学校にて、第8回学習支援ボランティアを実施しました。千葉・東京キャンパスから3名が参加しました。

東日本大震災発生当時、淑徳大学の卒業生が中学校の校長先生を務めていたことがきっかけで始まった学習支援ボランティアですが、今年も高校受験を控えた中学

3年生を中心に受験対策の学習支援をしました。

学習支援以外にも、雄勝名物「硯」製作現場でのお手伝い、震災当日の状況を知る方の説明を聞きながら大川小学校跡地を見学するなど、多くの学びを得ることができました。



▲雄勝中学校3年生の皆さんと



▲バンクーバーからは、この小さな飛行機で移動しました



▲世界遺産 天安門前の広場にて

カナダ、天津で夏期研修を実施しました

8月6日から3週間、カナダ・プリティッシュコロンビア州カムループス市にある、トンブソンリバース大学で英語研修が行われました。ブラジル、メキシコ、台湾、中国、エクアドル、イタリアからも学生が参加し、計56名でした。(日本人は37名)。本学からは8名(千葉5名、埼玉3名)の学生が第1期生として参加しました。

カムループス市は、バンクーバーから飛行機で45分の距離にあり、多くの山や広大な川に囲まれ、落ち着いた環境です。英語学習に加え、カナダの大自然を満喫できる

カヤック、乗馬、ゴルフといったアクティビティや、先住民のアイトクラスなど、カナダの文化を学べるカリキュラム構成となっています。学生は英語力の向上に加え、ホームステイを通してカナダの文化や生活習慣を学ぶことができました。

また、8月19日から8日間の日程で、中国の天津大学で語学研修や異文化研修が行われ、6名(千葉3名、東京3名)の学生が参加しました。中国の文化体験や世界遺産の見学もするなど、充実した時間を過ごせました。

ちば産学官連携プラットフォーム設立、磯岡学長が会長に就任

8月9日、千葉市内で「ちば産学官連携プラットフォーム」設立のための包括協定締結式と設立総会が開催され、本学の磯岡哲也学長が会長に選出されました。

本プラットフォーム設立の目的は、地域内の複数の高等教育機関が連携するとともに、行政や産業界と協働・共創することで、高等教育機関の「魅力」を高めるとともに、地域の課題解決力を高めることです。千葉市、市原市に所在する計11大学・短期大学が参画し、学生募集、教育活動、就職支援等の各分野で連

携するとともに、産学官連携の取り組みを推進して参ります。

また、9月13日に千葉市役所にて千葉市との協定締結式を行いました。近日中に千葉商工会議所とも包括協定を結ぶ予定です。

【参加校】植草学園大学、植草学園短期大学、神田外語大学、敬愛大学、淑徳大学、千葉経済大学、千葉経済大学短期大学部、千葉明德短期大学、帝京平成大学、東都医療大学、放送大学(五十音順)



▲11大学・短期大学の学長・副学長で締結しました(前列左から2番目が磯岡学長)

COVER PERSON 表紙の人 No. 223



コミュニティ政策学部
コミュニティ政策学科 3年
むらき 玲奈 さん

2016年にコミュニティ政策学部に入學。本学女子バレーボール部員として活動するとともに、1年次には、2016年7月に米国で開催されたデフパレールボール世界選手権日本女子代表チームに選出され、チームとして世界4位の成績を残しました。2年次には、トルコ共和国で開催された「第23回夏季デフリンピック競技大会サムスン2017」のデフパレールボールチーム日本女子代表のメンバーとして金メダルの獲得に大きく貢献し、その功績が称えられ、「千葉県知事賞」を受賞した他、12月5日にはデフパレールボール女子日本代表チームとして天皇皇后両陛下に皇居で拜謁後、「文部科学大臣賞」の表彰を受けました。学業成績も優秀で、まさに文武両道を体現し、他の学生の模範となっています。

天皇皇后杯千葉県ラウンドにて女子バレーボール部が惜しくも3位



本学千葉キャンパスアリーナも会場となった「全日本バレーボール選手権大会 千葉ラウンド」にて女子バレーボール部が3位と健闘しました。

大学教育とオリンピック、パラリンピック

いそおかてつや
淑徳大学 学長 磯岡哲也

2020東京オリンピック、パラリンピックが近づくとともに、各大学では、大会へのかわり方が模索されています。淑徳大学でも有志の学生さんによる大会ボランティアや都市ボランティアへの参加だけでなく、すべてのキャンパスで、オリンピック、パラリンピック教育としてのプログラムを検討しています。

オリパラ教育について、たとえば東京都教育委員会では、教育の基本的枠組みとして、

オリパラ精神、スポーツ、文化、環境の4つのテーマを掲げ、重点的に育成する5つの資質として、ボランティアマインド、障がい者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を挙げています。

この5つの資質と内容的には重なりませんが、本学でも建学の精神である利他共生社会の実現に資する社会人の育成のため、地域社会のニーズに応えながらオリンピック、パラリンピックにかかわる教育活動を展開することに努めます。

千葉キャンパスでは、2010年度から学生さん主体で運営してきた「車いすバスケットボール大会」の実績があり、市内で開催されるオリンピック3種目、パラリンピック4種目へのサービスマーケティングとしてのかかわ

りが期待されます。埼玉キャンパスでは、大会2年前イベントへの参加、三芳町がオランダ女子柔道チームのホストタウンとなったことによる三芳町の事業へ参画します。また、埼玉県の県政出前講座を活用し、授業のなかで、オリンピック憲章を理解することを検討しています。東京キャンパスでは、すでに「リアフリー観光案内」や現代日本文化の紹介誌「日本人あるある」などの冊子制作等に取組み組んでいます。

このように、各キャンパスで、地元の自治体との連携のもと、学部学科の特色を活かした教育が計画されており、個々の授業でも、オリンピック・パラリンピックを意識した授業づくりがなされることを期待したいと思います。

教員からの

提言！

学生に伝えたいこと

淑徳大学は「総合福祉」「コミュニティ政策」「経営」「教育」「看護栄養」「人文」の6学部を擁しています。それぞれアプローチは異なりますが、共生社会の実現とそれを担う人材育成という同じ目的に向けて、教育・研究やさまざまな活動を展開しています。

1 わたしの「提言」

地域の力を結集して、認知症に罹患しても住み慣れた地域で生活できる社会を

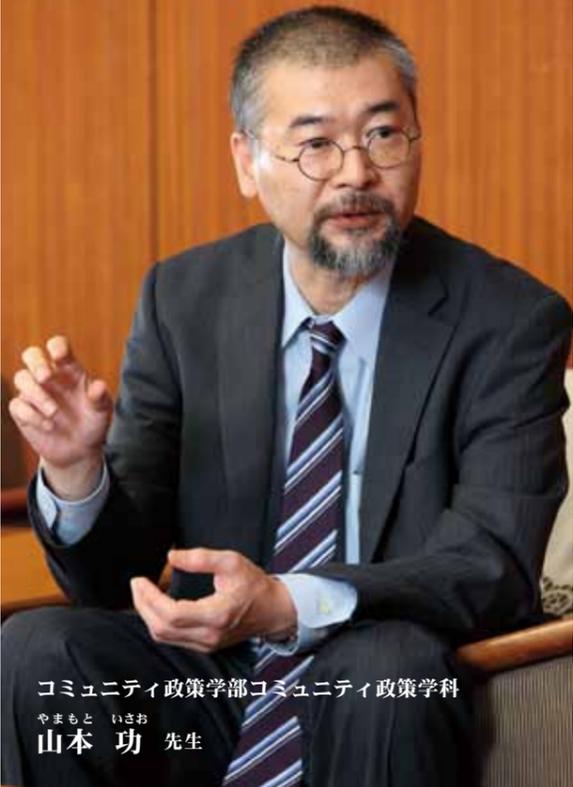


看護栄養学部看護学科
たしろ かずこ
田代 和子 先生

たとえば、少子高齢化社会が私たちの未来にどのような影響をもたらすのでしょうか？介護の困難、働き手不足や経済の停滞、社会保障費の増大など、問題は多岐にわたります。また、AI（人工知能）の普及や地球温暖化の進行など、科学や自然にかかわる問題も「人間」抜きには考えることはできません。つまり、すべての学問・研究は、よりよく生きるためのものであり、人、さらに自然界のすべての「いのち」とつながっていると考えるでしょう。

それだけに、本学の半世紀以上にわたる教育・研究・活動の実績、そして新たな取り組みを社会に向けて発信し、働きかけていくことがますます重要になっています。

今号では先生方の研究や活動の深い見聞に触れて、私たちの学びや活動の意味を考えてみましょう。



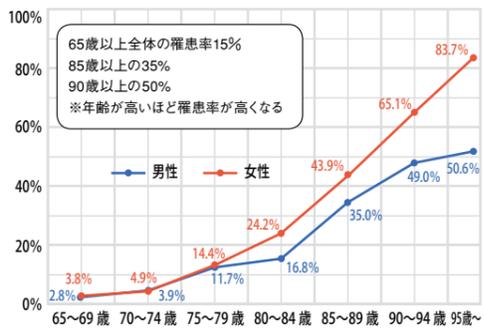
コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科
やまもと いさお
山本 功 先生

「安全」と「安心」はどんな関係にあるのか

2 わたしの「提言」

2003年の犯罪対策閣僚会議「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」は、冒頭で「治安水準の悪化と国民の不安感の増大」と状況を規定しました。内閣府や研究機関による調査結果からは、犯罪認知件数が減少しても、人びとの不安感は必ずしも改善しないと読みとれました。「安全」と「安心」には乖離があるので

他方、日本全体への治安評価はよくないが、自分の住んでいる地域社会についてはそうでもない、ということも示されました。たとえば、2014年に社会安全研究財団が実施した全国調査では、「日本は1年前と比べて治安が良くなったか」といって「悪くなったか」といって「悪くなった」と回答し、「変わらない」と回答した。それに対し、「あなたが今お住まいの地域は…」



【表1】認知症有病率
(出典：朝日隆ほか「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応 平成23年度～平成27年度」)



淑徳オレンジカフェ

学生VOICE

田代先生は、とても親しみやすい人柄で、豊富な知識をもとに何事にも学生と共に考える確かなアドバイスをくださるところが、とても魅力的です。一緒にいると癒されます。



看護学科4年 小田 葵さん

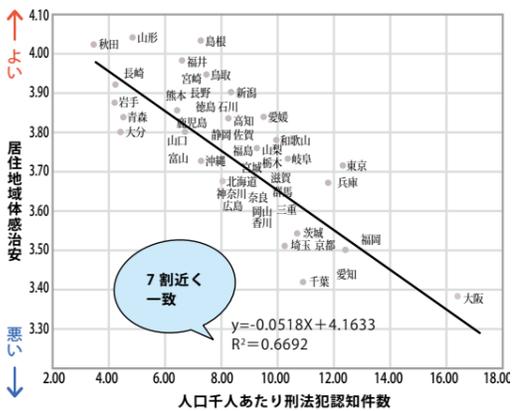
私は看護学科で老年看護学を担当しています。この領域では、あらゆる健康の段階にある高齢者の方々がその人らしい生活を全うできるような生活支援や疾病予防等について学修します。日本は未曾有の超高齢化社会を迎え、今や人生100年を見据えた高齢者看護を具現化する必要に迫られています。しかしながら、平均寿命の伸びに対する健康寿命（自立した生活ができる期間）は思うように延長しておらず、特に女性の場合では、平均12年程度の要介護期間があります。これらの介護を必要とする疾病の中心が認知症です。認知症は加齢と関連する疾病であり、90歳を超えると半数以上の方に発症することから、いまや

認知症は国民病といっても過言ではありません(表1)。近年、認知症をめぐる事件・事故が多発しており、社会的問題ともなっていることは周知の通りです。これまで在宅の認知症患者の介護は主に家族に委ねられてきましたが、核家族化等の影響を受け、今後は社会全体の課題として、地域のもてる力を結集することが、認知症に罹患しても住み慣れた地域で生活することができる社会の実現に繋がってくると思います。

このような少子高齢化を背景とした社会的要請を受け、学部地域連携委員会では、平成29年度研究推進事業として、昨年10月より地域の拠点「ひだまり」にて、毎月1回「淑徳オレンジ」(認知症)カフェを地域との協働運営という形で開催しています。認知症の不安のある方、軽度認知症の方や家族を対象として、大学教職員と学生ボランティアおよび介護福祉施設、病院、民生委員等の関連施設を巻き込んだ地域ネットワークが可能となった開催でした。カフェは、地域の方々の居場所として、楽しい時間を過ごして頂くほか、認知症の相談・教育としての講演・家族支援を行うことを目的として運営しています。

とたずねると、「悪くなった」は8.3%で、70.8%は「変わらない」でした(両者ともN=2028)。(出典：公益財団法人日工組社会安全財団/2015「犯罪に対する不安感等に関する調査研究」第5回調査報告書「…43/44」)。社会全体に対する評価と、自分の住む地域に対する評価が、異なっているわけです。

この調査で、「あなたは、お住まいの地域の治安をどの程度だとお感じですか」と、「悪い」1から「よい」5までの5段階でたずねました(各県約1000サンプル。N=16084)。これと、人口あたり刑法犯認知件数との関係を以下の散布図にし、回帰直線を示しました。



【図1】人口あたり刑法犯認知件数と居住地域体感治安
注)居住地域体感治安は、「悪い」1点～「よい」5点で測定。点数が高いほど「よい」という評価である。
(出典：山本功,2017,「都道府県別の居住地域体感治安と犯罪不安の分析」『政策と調査』12:57)

- おすすめ書籍
- 河合幹雄/2004/「安全神話 崩壊のパラドックス—治安の法社会学—」岩波書店
 - 浜井浩一・芹沢一也/2006/「犯罪不安社会」光文社新書
 - 小侯謙二・島田貴仁「編」/2011/「犯罪と市民の心理学」北大路書房
 - 中谷内一也/2008/「安全。でも、安心できない…」ちくま新書



人文学部表現学科
たなか のりひろ
田中 則広 先生

4 わたしの「提言」

世界に向けた情報発信のあり方について

「世界遺産研究」「エコツーリズム論」「観光資源論」「地域観光研究」。いずれも私が淑徳大学の経営学部観光経営学科で担当している(いわゆる講義形式の)科目名称です。

一見したところ、「観光や旅行に関連していいそうだ」ということ以外、さしたる共通点を感じられないかもしれません。しかしどれも自身の研究分野との関係性という側面において大きな共通点があるのです。

おそらく多くの皆さんが「観光経営学科」という学科名からイメージするのは「旅行業やホテル業、航空産業など観光に関連する企業の経営」ではないでしょうか。こうしたイメージはもちろん間違っていないのですが、本学科が扱うもう一つの重要な領域が「観光地をはじめとする地域の経営」です。その要諦は、一般的に観光地と呼ばれる、観光客の来訪を受け入れることで経済的・社会的に成り立っている地域全体をどのようにマネジメントするか、ということになります。

大きな広がりを持つ研究分野ですが、私はその中でも「心地よい空間や豊かな時間を提供するために観光地はどうあるべきか」という点に関心を持ち、そのような地域の姿を実現するための計画論について研究しています。その背景にあるのは、「人間はなぜ、なにを求めてすみかを離れ旅に出るのか」という人間の行動

に対する問いかけだと言えます。従って私のゼミに所属する学生諸君の研究テーマは、観光地において①人(観光客や住民)が快適で豊かに過ごすための空間のあり方やより良い観光体験を提供するための手法に関するデザイン、あるいは②魅力的な観光地としての地域の将来像を描くプランニング(計画づくり)です。そのため各自が具体的な観光地を取り上げ、対象地域の特性と観光客ニーズの両面から現状分析と課題の把握・整理を行い、課題解決の方策について検討を行っています。

さて、冒頭で触れた4つの担当科目ですが、通底するのは「観光地の経営」に焦点を絞った科目であり、様々な地域を抱える課題の解決に観光という「手段(あるいはツール)」が貢献するという視点を提示を狙いとしている点です。こうした視点は卒業後に地域と密接な関係性を有する職を得た際にも役立つものと考えています(必ずしも観光関連産業に限りません)。

最後に、近年私自身は自然環境に恵まれた観光地において地域資源の保全と活用のバランスの最適化をいかに図るかを念頭に、観光地の計画論の整理に取り組んでいます。その過程で出会った「自然の風景論 自然をめぐるまなざしと表象」(西田正憲著)は観光分野だけにフォーカスした書籍ではありませんが、我

近年、日本から世界各地に向けた情報発信の必要性に注目が集まっています。日本政府は自国の番組コンテンツの海外発信を強化するため、字幕や吹き替え作業といったローカライズやプロモーションなどの支援に乗り出しています。

これまで日本の番組コンテンツはその多くが国内での消費にとどまってきましたが、海外からクール(素敵な)と評される番組コンテンツについて積極的に輸出を図る「クールジャパン」戦略など、官民一体となった海外展開のための試行錯誤が続いています。著作権処理問題に象徴されるように、海外展開のためのシステムが十分に機能していないため、例えば、政府主導で番組コンテンツの海外流通を促進してきた韓国などに比べると、対応が後手に回っています。

そこで、今後の海外に向けた番組コンテンツの展開を考えるために、人口やGDP(国内総生産)などから将来の市場として潜在性が高いと考えられる東南アジアの国々において、外国制作の番組コンテンツがどのように視聴されているのかについて調査を実施しました。

調査結果の一部を紹介いたします。各国のモニターを対象に視聴ジャンルについて質問したところ、タイでは多くの国の番組コンテンツについて、映画とドラマが上位に挙がりました。しかし、日本の番組コンテンツに

が国の美しい自然風景を訪ね歩くことを好む諸氏に対して、自分自身の興味の根源を見つめ直す興味深い視座を示してくれるでしょう。

おすすめ書籍
●西田正憲/2011/「自然の風景論 自然をめぐるまなざしと表象」清水弘文堂書房

3 わたしの「提言」

心地よい空間や豊かな時間を提供するために 観光地はどうあるべきか



学生VOICE

堀木先生の「観光資源論」を受講しています。観光資源には限りがあり、それをどういった形で保存・活用していくかが特に大切であることを知りました。履修後は、同じ観光地へ行くにしても、見る視点が変わり、一層観光資源に興味を持ちました。

観光経営学科3年 永井 亜佳音さん

経営学部観光経営学科
ほりき みつぐ
堀木 美告 先生

関しては、アニメが最も人気が高く、次にバラエティ、映画、ドラマがランキングしました。(表1)

フィリピンのモニターを対象に実施した調査からは、すべての国のテレビ番組の上位に挙げがったのは映画であり、それ以外のジャンルについては日本がアニメ、韓国がドラマ、中国が情報番組、米国がスポーツといったように多様性に富んでいました。(表2)

調査はWeb調査という手法を用いました。限られた予算と時間の中で、海外の人々から効率的に回答を引き出すことができる一方で、モニターの回答が必ずしもその国で暮らす人々の見方を、偏りなく正確に反映してはいないといった課題があるため、調査手法については今後の検討課題でもあります。

クールジャパンが多くの国々に定着し、海外に日本のファンを増やしていくためにも、それぞれの国々における視聴形態や好みなどを詳細に調査した上で、現地の目線を持った番組コンテンツやチャンネルの展開が求められています。そのための一助となるような調査・研究に取り組んでいきたいと考えています。

おすすめ書籍
●渡辺靖/2011/「文化と外交：パブリック・ティヴロマシーの時代」中央公論新社

(N=200)

| | 日本 | 韓国 | 香港・台湾 | 中国 | 米国 | その他の国 |
|----|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|--------------|
| 1位 | アニメ 68.0 | ドラマ 61.0 | 映画 25.5 | 映画 27.5 | 映画 73.5 | 映画 18.0 |
| 2位 | 映画 39.0 | 映画 35.0 | ドラマ 25.5 | ドラマ 22.5 | スポーツ 58.0 | 情報番組 16.0 |
| 3位 | 情報番組 32.5 | 音楽番組 20.5 | 情報番組 23.0 | 情報番組 17.0 | 音楽番組 54.0 | スポーツ 13.5 |
| 4位 | ドラマ 25.0 | 情報番組 20.0 | バラエティ 17.5 | バラエティ 15.0 | 情報番組 53.5 | その他の番組 13.0 |
| 5位 | バラエティ 18.0 | アニメ 18.5 | アニメ 13.5 | アニメ 14.5 | バラエティ 42.5 | ドラマ 9.5 |
| 6位 | スポーツ 17.0 | バラエティ 18.5 | 音楽番組 11.5 | 音楽番組 14.5 | ドラマ 39.5 | アニメ 9.0 |
| 7位 | 音楽番組 14.5 | その他の番組 11.5 | スポーツ 11.0 | スポーツ 12.5 | アニメ 25.5 | 音楽番組 8.5 |
| 8位 | その他の番組 13.5 | スポーツ 11.0 | その他の番組 10.0 | その他の番組 11.5 | その他の番組 25.5 | バラエティ 7.5 |
| 9位 | まったく見ない 11.0 | まったく見ない 12.5 | まったく見ない 26.5 | まったく見ない 26.0 | まったく見ない 1.5 | まったく見ない 56.5 |

【表2】国別テレビ番組の視聴ジャンル(フィリピン)
(出典：松本裕美、田中則広「日本の番組コンテンツの国際展開および受容実態に関する調査」『放送研究と調査』第67巻第1号、2017年1月、80頁)

(N=200)

| | 日本 | 韓国 | 香港・台湾 | 中国 | 米国 | その他の国 |
|----|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|--------------|
| 1位 | アニメ 46.5 | ドラマ 51.0 | 映画 33.5 | 映画 34.5 | 映画 56.0 | 映画 12.5 |
| 2位 | バラエティ 36.5 | 映画 39.5 | ドラマ 25.5 | ドラマ 26.0 | 情報番組 38.5 | 情報番組 10.5 |
| 3位 | 映画 36.0 | バラエティ 38.0 | バラエティ 21.0 | 情報番組 21.0 | スポーツ 34.0 | ドラマ 10.0 |
| 4位 | ドラマ 36.0 | 音楽番組 31.0 | 情報番組 16.5 | バラエティ 20.0 | ドラマ 31.5 | スポーツ 9.5 |
| 5位 | 音楽番組 26.0 | アニメ 17.0 | 音楽番組 14.5 | アニメ 15.0 | 音楽番組 30.5 | バラエティ 8.0 |
| 6位 | 情報番組 24.0 | スポーツ 15.0 | スポーツ 14.0 | 音楽番組 13.5 | バラエティ 26.5 | 音楽番組 7.5 |
| 7位 | スポーツ 17.5 | 情報番組 14.5 | アニメ 13.0 | スポーツ 12.5 | アニメ 15.0 | その他の番組 4.0 |
| 8位 | その他の番組 8.0 | その他の番組 6.5 | その他の番組 7.5 | その他の番組 6.5 | その他の番組 10.0 | アニメ 3.5 |
| 9位 | まったく見ない 10.5 | まったく見ない 15.5 | まったく見ない 30.5 | まったく見ない 33.0 | まったく見ない 6.5 | まったく見ない 69.5 |

【表1】国別テレビ番組の視聴ジャンル(タイ)
(出典：松本裕美、田中則広「日本の番組コンテンツの国際展開および受容実態に関する調査」『放送研究と調査』第67巻第1号、2017年1月、77頁)



総合福祉学部教育福祉学科
かわまた きよこ
川真田 喜代子 先生

今回、研究テーマの紹介という依頼を受けて、正直なところ、少し困りました。というのも、淑徳大学で過ごす間に研究テーマは変わり続けてきたからです。そのため本稿では、その経緯をふりかえりつつ、私の研究テーマを紹介してみようと思います。

1997年に埼玉キャンパスに奉職した頃、私の研究テーマは、安定同位体を使った水生生物の食物連鎖の解析、熱帯林における窒素・炭素の循環解析でした。実験機器と多額の資金を要する研究の一部を担うのです。当時、本キャンパス周辺では廃棄物の不完全燃焼に端を発する環境問題がありました。そのため、当時本学におられた北野大(まさる)先生を代表とした研究グループの一員として、この問題の研究に取り組むことになりました。この研究は、さらに欧州の環境政策や環境教育、中山間地域の地元資源を活用した地域活性化政策などの調査へと広がる一方、実験機器を使う研究を続けることは難しくなっていました。

その後、教員に求められる学生対応も多様化したことに加え、もともと人間そのものにも興味があった私は、2006年に産業カウンセラーの資格を、2008年にはキャリアコンサルタントの資格を取得し、産

業カウンセラー養成講座の実技指導にも関わるようになりました。これは研究より実務的な活動です。しかし、結果としてこの経験が、高大連携のキャリア教育教材の作成に役立ち、教育学部の初年次教育の内容立案・実施・効果検証などにも繋がりました。また、チームワークとリーダーシップという授業を通じて、深い学びを得る授業のあり方を考えることにも繋がっています。現在は、教育学部の先方と共に、パネルシアターの教育効果や親子のコミュニケーションツールとしての効果の検証に関する研究も始めました。

そんな私からのお勧めは、「芸術・無意識・脳―精神の深淵へ―世紀末ウィーンから現代まで」です。2000年にノーベル医学・生理学賞を受賞したエリック・カandel先生が、人の無意識をめぐる芸術と科学の100年史を紹介しています。人の心や無意識の源を探っていく営みの多様さや面白さをたっぷり味わえる一冊です。たまには、こんな本に挑戦してみるのも良いと思います。

もともと水中の微小な生物を対象とした研究から始まり、生態系と人の関わりを経て、今は人間そのものの生き方、在り方へと、進化を辿るように私の研究テーマは変化してきました。そして、これからまた、変わるかもしれません。

おすすめ書籍
●エリック・R・カandel / 2017
／「芸術・無意識・脳―精神の深淵へ―世紀末ウィーンから現代まで」九夏社



教育学科1年 福岡 良介さん

学生 VOICE

松原先生の「チームワークとリーダーシップ」を受講しています。ただ講義を聞くだけでなく、授業の中で自己分析し提出した課題に対して、論理的かつ具体的な助言と評価が返ってくるので、大学の講義を受けている実感が湧きました。

教育学部こども教育学科
まつばら たけし
松原 健司 先生

5 わたしの「提言」

“今ここで、できること”から
たどり着いたこと



6 わたしの「提言」

教員採用試験
夏の二次対策と感恩奉仕

今年も暑い夏に淑徳大学恒例の「教採二次対策」が8月上旬から始まりました。この対策は始まって14年にもなります。教員になる夢を実現するための二次試験関門突破のため現役生はもちろん卒業生で講師をしている元学生たちも学びに来てくれます。14年間の二次対策では沢山のドラマが生まれました。何故ならこの対策は単なる教員合格を目指すための受験対策講座ではないからです。

特別支援教育を中心として「自分は何のために生きているのか」「子ども達が好きなのは教員にはなれない」「生きにくさを抱えている子ども達に寄り添い共に生きるとは？」と受講生の誰もが真剣に苦悩しました。

し、日々子ども達と共に活動できる幸せと喜びを実感して教育現場で活躍しています。

そのような日々を送ることのできる「源」は多くの仲間と共に真剣に生きた淑徳大学そのものがあり、卒業生たちは肌で感謝報恩の気持ちを感じ取り、「感恩奉仕」を自身の生き方に行っているのだと私は思っています。今ある「自分」は淑徳大学の仲間、先生や職員の方たちのおかげであると感じ取っているからこそ、毎夏休暇を取ってでも来てくれるのだと思います。

少ない夏季休暇を利用して、教師になろうと志を持って頑張っている後輩たちを少しでも応援し役に立ちたいと願う気持ちは、昨年の、いや数年前の自身の姿に重なるのかもしれない。その時の先輩たちの応援が心にしみに違いありません。

今年是一家で来てくれたのが4組、その内1組は、新幹線で富山から来てくれました。その他千葉県からは毎日多数の先輩たちがひっきりなしに来てくれました。先輩の子ども達を前にして

今年も暑い夏に淑徳大学恒例の「教採二次対策」が8月上旬から始まりました。この対策は始まって14年にもなります。教員になる夢を実現するための二次試験関門突破のため現役生はもちろん卒業生で講師をしている元学生たちも学びに来てくれます。14年間の二次対策では沢山のドラマが生まれました。何故ならこの対策は単なる教員合格を目指すための受験対策講座ではないからです。

特別支援教育を中心として「自分は何のために生きているのか」「子ども達が好きなのは教員にはなれない」「生きにくさを抱えている子ども達に寄り添い共に生きるとは？」と受講生の誰もが真剣に苦悩しました。

だから、毎日、何のために生きているのか、子どもの幸せを願う仕事に就くという心はどのようにならざるを得ないのかと自問自答し、時には心を揺さぶられ自身の生き方を顧みて涙する学生も多数います。その経験を通して結果、各自が教師として納得のする生き方を見出

の模擬授業、先輩たちのにわか面接官での面接練習は大いに盛り上がり、刺激をもらいました。このように他大学にはない誇れるものが淑徳大学にはあります。良信先生が「人の子もわが子と思え」。「世のため、人のために尽くすことが己のためであり己の幸せに通ずるものである。」そして「その生き方こそが感恩奉仕だ」と54年前、接心会の講話で話してくれたことを改めて噛みしめる夏の対策講座でした。

教員という天職と使命を見出し笑顔満面であってくれた卒業生の顔はまぶしく、それを受け継いで現役学生達を励ましてくれる次世代の「幼子」も遅く、良信先生の「新に社会に貢献できる人材育成」は今でも受け継がれていくのだとしみじみ思いました。

淑徳人 No. 223

AISO Saraa

相曾 紗良亜さん

WOWOWエンタテインメント株式会社 勤務

映像コンテンツに字幕を付ける仕事している相曾さん。時にはリアルタイムで迅速に、時にはじっくり作り込み、見ている人がどんな状況でも、的確に情報が伝わる工夫をしています。一見、福祉の現場とは距離がありそうなメディア業界に相曾さんが就職したのは、大学時代のゼミでの経験が原点になっていました。

2012年 総合福祉学部卒業。スポーツ中継での字幕放送を担当する他、屋外での字幕活用などにも意欲を見ている。

日々、世界のあちこちで熱い戦いが繰り広げられるスポーツの舞台。その中継にリアルタイムで字幕を載せるのが、相曾さんが働く現場です。海外サッカー、グラウンドスラムテニスなど、次に何が起きるか分からない緊張感とスピード感の中、音声を的確に字幕にします。生字幕以外にも映画やドラマの字幕を付けるなど、20代にして豊富な経験を持っています。そんな相曾さんと字幕を結びつけた原点は、淑徳での大学時代にありました。

「ゼミにいた頃、聴覚障がいの方と字幕放送を見た時、自分たちでも映像に字幕を付けてみるという機会がありました。そこで字幕放送を見て、同じタイミングでみんなが笑っていたのが、とても印象的だったんです。就職活動がなかなか上手くいかず、どうしよう?と思った時、そうだと点に戻ろう、ゼミでの経験を活かそうと考えました。そこから実際に字幕を作る仕事がある事を知り、就職先を選ぶ事ができました。」

Photo × Photo



【松山ゼミで江の島へ合宿に行った時の1枚】この時、みんなで1つの部屋に集まってテレビを見たことが今の仕事を見つけたきっかけです。海岸で「MATSUYAMA」の格好をした写真をみんなで撮ってその写真を使ったボードを松山先生にプレゼントしました。



【卒業式での1枚】今でも集まる仲間うちの2人は地元まで一緒に大学まで一緒に来たりしていました。違う学科でも同じ授業が受けられたりアドミッションオフィススタッフをやったりと人生で一番友達が多かった時代かもしれない……!

多くの人に的確に情報が伝わるように字幕の可能性をもっと広げたい

「ゼミにいた頃、聴覚障がいの方と字幕放送を見た時、自分たちでも映像に字幕を付けてみるという機会がありました。そこで字幕放送を見て、同じタイミングでみんなが笑っていたのが、とても印象的だったんです。就職活動がなかなか上手くいかず、どうしよう?と思った時、そうだと点に戻ろう、ゼミでの経験を活かそうと考えました。そこから実際に字幕を作る仕事がある事を知り、就職先を選ぶ事ができました。」

「淑徳スペシャルナイターの関係で、淑徳の学生さんとメールをやり取りしているのですが、自分の学生時代は、企業の人とこんな経験をする事はなかったもので、とてもいいなと思いました。やはり学生時代に色々な経験をしておく事は大切です。自分の力で頑張るだけでなく、大学が提供してくれるプログラムをうまく活用し、自分の財産にするのもいいですよ。」

Photo × Photo



【松山ゼミで江の島へ合宿に行った時の1枚】この時、みんなで1つの部屋に集まってテレビを見たことが今の仕事を見つけたきっかけです。海岸で「MATSUYAMA」の格好をした写真をみんなで撮ってその写真を使ったボードを松山先生にプレゼントしました。



【卒業式での1枚】今でも集まる仲間うちの2人は地元まで一緒に大学まで一緒に来たりしていました。違う学科でも同じ授業が受けられたりアドミッションオフィススタッフをやったりと人生で一番友達が多かった時代かもしれない……!

ともいきのこころ

大学教員としての学祖の活動

学祖・長谷川良信先生は、社会事業の実践家としての功績は言うまでもなく、教育者・研究者として、後進の育成や社会事業の理論の構築にも尽力されました。後に続く者を育てたい」という学祖の情熱により本学が誕生したことは周知のことです。今回は大正時代後半を中心に、教育者としての顔、欧米への留学、時代背景などを見てみることにしましょう。



学祖ゆかりの地・人

◆ 宗教大学
宗教大学は、東京・西巢鴨に1887(明治20)年、浄土宗教育資団設置の大学で、良信先生は5年間(予科2年・本科3年)の学生生活をここで送り勉学に励みました。終生の恩師となる宗教大学教授・渡辺海旭先生とも学生時代に会いません。海旭先生のことを良信先生は「最高、最良の師」120パーセントの信頼を置いていた」と述べています。学生時代の良信先生は養父(小池智誠・得生寺住職)の世話にならず、苦学してでも自分の力で大学を卒業しようと決意し、そのためにずいぶんアルバイトもしたと言います。宗教大学は、大正15(1926)年に組織変更して大正大学に校名を変え、現在に至っています。



◆ 賀川豊彦(かがわ・とよひこ)
1888(明治21)年～1960(昭和35)年。キリスト教社会運動家、社会改良家。空前のベストセラー『死線を越えて』(改造社刊)の著者として有名であり、クリスマスチャンとして神戸新川のslam街でセツルメント活動に取り組んだ人物です。このslam街で献身的な伝道と救済活動を展開しました。無念にも結核を患ってしまい、その療養中に、救済活動の体験をまとめたのが『死線を越えて』です。この本が評判になったのは、奇しくも良信先生がマハヤナ学園の活動を始めたのと同時期になります。労働運動や農民運動など多岐にわたる活動で重要な役割を担っていました。

【賀川記念館ホームページ】
<http://core100.net/index.html>

良信先生が26歳(大正5・1916年)のとき、『浄土教報』(浄土宗の機関誌)に、良信先生は「社会事業に於ける人材養成の急務」という論文を発表しています。ここで大学に「社会事業科」の開設を訴え、専門的な社会事業教育を開始するよう提言しています。社会事業科とは今日の社会福祉学科にあたるもので良信先生の意見には驚かされるばかりです。これを受けてわが国において大学では最初の社会事業教育機関として、大正7(1918)年に宗教大学に「社会事業研究室」が設置されます。良信先生はこの理事に迎えられ、同研究室実地調査部として東京・西巢鴨の二百軒長屋のセツルメント活動に着手することになります。

社会事業活動に本格的に取り組み始めた良信先生は、大正10(1921)年に宗教大学の講師となり、教育者としての第一歩を踏み出しています。ここで、良信先生は「救済事業」の講座を担当することになります。もちろん、芝中学や国士館高等部(現・国士館大学)の講師など、良信先生の教育経験は豊富ですが、専門的で系統だった学問を極め、かつ、腰を据えた教育活動を開始したのは宗教大学講師就任が端緒と言えるでしょう。大正13(1924)年には同大学の教授に就任。以後、昭和の戦後も社会事業や学科教育の教育・研究にあたり、社会事業家や中高教員の養成に尽力しました。

宗教大学の講師就任の約1年後の大正11(1922)年、32歳のときに欧米留学に出发しています。米国ではおもに宗教と政治の関係、社会問題と社会事業・宗教事業の実状に関する調査、視察を精力的に行い、貴重な資料を入手したと言います。さらにドイツに渡り、社会政策、社会事業の世界のトップレベルの教授のもと、「ドイツ社会政策の基礎的問題」をテーマに、テーマの研究、語学の練習、同教授による週3回の個人指導、台問をぬっての社会事業関係機関等への視察に精力的に励みます。当時の世界で最高水準にあると言われたドイツの社会政策を系統だった学問として学べたことや、各地の社会事業の実情に触れたことは終生の財産となりました。

宗教大学の講師となり、教育者としての第一歩を踏み出しています。ここで、良信先生は「救済事業」の講座を担当することになります。もちろん、芝中学や国士館高等部(現・国士館大学)の講師など、良信先生の教育経験は豊富ですが、専門的で系統だった学問を極め、かつ、腰を据えた教育活動を開始したのは宗教大学講師就任が端緒と言えるでしょう。大正13(1924)年には同大学の教授に就任。以後、昭和の戦後も社会事業や学科教育の教育・研究にあたり、社会事業家や中高教員の養成に尽力しました。

宗教界の同志、ライバル
良信先生の社会事業や学問への情熱を支えたこととして、仏教界ならびに社会事業関係者の若き指導者としての期待があったと言えるでしょう。前述の欧米留学も内務省囑託および浄土宗海外留学生の立場で赴いたものでした。さて、良信先生とはほぼ同時代を生きた社会事業家として覚えておきたい人物が賀川豊彦(1888～1960)師です。キリスト教プロテスタントの牧師で精力的に伝道や貧民救済に取り組んでいました。後に、「仏教の長谷川、キリスト教の賀川」、あるいは「西の賀川、東の長谷川」と言われるように、ある意味で良信先生の良きライバルと言える人物です。また、賀川師も結核に苦しみながら献身的な活動を行っており、良信先生と境域的な活動に近いことに運命的なものを感ずります。賀川師は生活協同組合の原形となる神戸購買組合を創設したことや、関東大震災後(1923年)には東京でも救済活動を展開したことも知られています。

Not for him, But together with him

第3回 医療的ケア児のご家族・きょうだい児支援 wellzap



8月12日、「ソーシャルサポートアソシエーション・ルーツ」と協働で開催している『第3回医療的ケア児のご家族・きょうだい児支援 wellzap』が開催されました。重症児と共に生活をされているご両親からは、医療的ケア児等の世話や家事などで、中々きょうだい児を遊びにつれていくことができないという声を多く聞きます。

そこで、ご家族全員で楽しめるよう「流しそうめんと夏祭り」を企画しました。このようなイベントがあることで、医療的ケア児にとって安心や安全な外出の機会となるだけでなく、ご家族にとっても同じ仲間同士のふれあいや、楽しい思い出づくりともなります。
「そうめん」づくりは、千葉県千葉リハビ



医療的ケア児用の食べやすい「ジュレそうめん」とても美味しいと評判でした

リテーションセンターの摂食嚥下障害認定看護師の監修のもと、栄養学科の学生が担当しました。食べたり、飲んだりすることが苦手なお子さん用に、枝豆・トマト等のジュレをかけたそうめんを作りました。看護の学生にとっても、たくさんの医療的ケア児とご家族と触れ合うことができ、とても有意義な時間となりました。

栄養学科 キャリア国試懇談会が開催される



1年生から4年生を対象に、キャリア国試懇談会が8月4日に開催されました。本年度は第2期の卒業生を中心に、管理栄養士として様々な職種でご活躍されている6名の先輩の方々から国家試験合格に至る秘訣や就職内定に至るプロセスを丁寧に講演していただきました。職種としては病院、企業(食品、医薬業、販売)、保育園そして大学院に現在在学中の先輩

からもお話を聞ける機会が得られました。幅広い分野から未来像を熱く語っていただき、先輩たちは真剣な眼差しで約5時間という時間を熱心に過ごしていました。午前中は講演方式、午後は演者の方々が各ブースに分かれ、直接、学生から質問を受けるという形式で行いました。どこのブースも多くの学生が熱心にメモをとっている姿は印象的でした。何らかのインスピレーションをつかんで、今後の就職活動、国試勉強に反映できたかと思えます。先輩たち以上の卒業後の活躍を願っています。

第43回 松ヶ丘中学校地区 ふるさとまつり



松ヶ丘中学校地区では、夏季になると地域運営委員会を

中心として「ふるさとまつり」が8月25日に開催されました。第43回となる今年も盆踊りのほか、小学生によるよさこいソーランや中学生のプラスバンド演奏、地元の愛好会やロックバンドの方々によるパフォーマンスを行い、大盛況の内に終了しました。

さて、本学看護栄養学部では現在、全学部生を対象としてボランティア活動を実践する「ボランティア講座」を開講しています。多くの本学学生がふるさとまつりに参加し、うちわの配布、かき氷販売、抽選会補助のボランティアを行いました。地域の皆様からたくさんの感謝の言葉をいただき、参加した学生一人ひとりが、地域活動を通じた社会貢献の重要性を実感することができました。

EPA経済連携協定に基づく ベトナム人介護福祉士候補者との国際交流



7月12日、6年目となるベトナム介護福祉士候補者(193名)と社会福祉学科の学生(144名)との交流が行われました。交流会では、ベトナムと日本の文化と生活、医療や福祉、若者の文化や流行などについて活発な議論が行われました。国際交流を通して多くの学生が働く意味や学ぶことの大切さを感じる機会となりました。

参加学生の感想は「たいへん明るく活力がある印象でした。1年間で日本語を学び、はきはき話す姿を見てすごく努力をしていると感じました」今後必要となる介護技術を学び将来は母国に持ち帰りたいと聞きましました。そのため1日何時間も勉強していると聞き、見習わなければと思いました」

第10回 淑徳大学スペシャルナイター開催!

8月24日、千葉ロッテマリーンズの冠協賛試合イベントとして「淑徳大学スペシャルナイター」が開催されました。例年、コミュニティ政策学部のサービスラーニングセンターのプロジェクトとして企画・運営されるこのイベントは、今回で10回目の開催となります。

プロジェクトに参加したコミュニティ政策学部の学生43名が企画・運営を行い、看護栄養学部、総合福祉学部、車いすバスケットボール全国選抜大会実行委員会、徳能雑技団と連携して、合計83名の学生によってさまざまな取組が行われました。

また、WOWOWエンタテインメント株式会社と連携したアプリによる球場内での実況動画の配信、民族衣装文化普及協会と美浜区高校生連携会議と連携した浴衣を活用した企画など、学外の団体等との連携で実現した取組も行われ、バラエティに富んだイベントとなりました。



第18回 白旗七夕祭り開催

7月7日、千葉市中央区白旗地区での七夕祭りに参加しました。社会福祉学科の前期科目「福祉系ビジネスインターンシップⅠ」履修学生28名およびコミュニティ政策学科「コミュニティ研究Ⅰ」の履修学生35名がグループに分かれて企画を運営しました。グループで設定した目標に向け、毎回の授業ではグループ内での議論のほか、教員とグループ、職員とグループの意見交換など、複数の交じり合うアクティブラーニングとなりました。

実施後は、白旗町内会長様、副会長様ご参加のなか、各グループによる活動の振り返りをプレゼンすることで、地域が大学生に求める力などを再確認することができました。

今年度は全学科の情報処理法のなかで作成されたポスターが商店街のあちこちで貼られました。これからも地域をキャンパスとした活動の大切さを学んだ1日となりました。



手作りの輪投げなどを工夫するなかで、地域の子ども達との交流を楽しみました。その後、各グループの活動を振り返り、プレゼンしました。貴重な体験となりました。

白寄せミに感謝状

1期生から3期生まで3年にわたり継続して警視庁の防犯キャンペーンに協力してきた白寄せミのゼミ生に警視庁および、公益財団法人東京防犯協会連合会より、感謝状が送られました。

高齢者の方の心に響く特殊詐欺防止のキャッチコピー、チラシやポスターに斬新なアイデアを用いたことから、警視庁でも話題になっているそうです。昨年度は、戦闘シリーズを思わせるマスコット「ルスデンジャー」、今年度はゆるキャラ風のマスコットにキャッチコピーをのせた作品の完成となったそうです。本年度の完成品は9月から警察署などの公共機関や自治体の掲示板、新聞の折り込み、そして、10月の防犯キャンペーンで目にすることができます。



歴史学科での多彩なフィールドワーク



東京都埋蔵文化財センターの外観(上)

同センターの展示室で、縄文土器に触れながら説明を聞きました(左)

歴史学科では2018年度前期にも多くのフィールドワークを実施しました。

「東洋文化史」の講義では、6月29日に東京国立博物館でのフィールドワーク。同館は日本を代表する博物館のひとつで、今回は東洋史関連の講義ということもあり、アジアギャラリーを中心に古代中国で作成された仏像や画像石を見学してきました。仏像ごとに異なる顔つきや装飾などを熱心に観察

し、東アジア地域における仏教文化の広がりについて理解を深めました。

1年次生担当科目の「歴史調査法」では、7月13日に東京都多摩市にある東京都埋蔵文化財センターを見学。同センターでは、実際に出土した縄文土器に直接触れることができます。これまでもレプリカを扱うことはあっても、本物の縄文土器に触れる機会がなかった学生は、初めての体験にやや緊張気味でした。

夏季休暇中にインターンシップ

表現学科では、今春卒業した第1期生からラジオの放送局、テレビ制作会社、広告会社など、学科の専門性を生かした分野へ就職した学生がいます。

とはいえ、このような仕事の現場を経験する機会はなかなかありません。そこで、今年は学科独自のインターンシップとして、10名の学生がテレビやラジオの番組制作会社、編集・販売業務を行う出版社などでのプログラムが用意されました。

参加した学生は「実際に業務にふれることにより、仕事の大変さ、楽しさを身をもって感じる事ができた」「将来に向けて、残りの大学生活の中で何を学び、補強していけばいいのかが明確になった」と話してくれました。貴重な経験ができた夏季休暇だったようです。

2020—オリンピック・パラリンピックに向けて

東京2020 カウントダウンイベント(埼玉県) 出展しました



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会までいよいよあと2年。競技会場となる埼玉県では、大会の機運を高めようと、7月21・22日(イオンレイクタウン越谷)および8月25日(ららぽーと富士見)にカウントダウンイベントが開催されました。本学でも大学全体で東京2020大会を盛り上げていこうと、経営学部、教育学部合同でブースを出展いたしました。

ブースではシュクトクマのぬり絵体験、教育学部の学生によるパネルシアター、SNSフォトスポットを実施いたしました。会期中、たいへん多くの親子連れのお客様にご来場いただき、お子さんたちはシュクトクマのぬり絵や学生たちの熱演に目を輝かせていました。

本学は地域に開かれた大学として、今後も地域の活性化や国際交流に貢献して参ります。

教育学部フレンドシップ事業



教育学部では、教育に関わる様々な体験を通して、教職に対する自覚を高め実践的指導力を養うと共に、地域社会との連携強化を図ることを目的として、「フレンドシップ事業」を立ち上げました。本年度は、1・2年生を対象に募集をし、1年生9名、2年生13名、計22名がフレンドシップメンバーとして活躍しています。なお、主な活動は次のとおりです。

- 1 緑のトラスト保全第14号地ネイチャーイベントの司会進行
7月21日
- 2 みよしまち夏休み探検隊2018の企画運営
8月5日
※オープンキャンパス当日
- 3 みずほ台祭りへの参加(子どもの遊びコーナー担当)
8月25日
- 4 三芳町世界一の芋ほり祭りにおける運営補助スタッフ
9月29日
- 5 他大学視察(12月)※信州大学
この他にも、教育学部運動会の補助や、淑徳祭(10月20、21日開催)のポスター作成にも取り組んでいます。



みずほ台祭りに出店いたしました

「企業経営研究Ⅱ・Ⅲ」の授業の一環で、経営学部の学生が8月25日のみずほ台祭りに出店し、商店会活性化コースの2つの班がそれぞれかき氷とドリンクを販売しました。

祭りにはどのような人が来るのか、ライバル店は何を販売するのかを議論し、収益の予測をたてて臨みました。

しかし「経営」には想定外がつきもので、

当日はライバル店との比較をして焦りを感じたり、客足が思うように伸びず急遽値下げを決定したりと多くのアクシデントが発生する中で、利益を生むことの難しさを肌で感じる事ができました。

今回の「自分たちで店を出した」という経験を活かし、後期も商店会活性化のためのアイデア・構想を地元の方たちと共に作ってまいります。



知識×健康 モリモリ

第20回



栄養学科 教授
尾形 真規子先生

色白は七難隠すというけれど。

今年は例年になく暑く、外に出て過ごすことが少ない夏でした。

紫外線による皮膚の色素沈着や発がんなどの悪影響を避けるため、最近では、子供でも紫外線防御をします。しかし、皮膚への紫外線照射は、ビタミンDの合成に大切です。血液中のビタミンDのほとんどは、紫外線刺激により体内でコレステロールの中間代

謝産物から合成されているのです。日本人の特に女性では、半数がビタミンD欠乏症です。血中ビタミンDの低値は、筋肉の萎縮や骨折、2型糖尿病の発症リスクとなり、寿命の短縮に関わることがわかっています。妊娠可能年齢や、骨折リスクの高い閉経後の女性では特に、関東地方では一日1時間程度の日光暴露が必要と言われています。

学園祭&ホームカミングデーのお知らせ

千葉 Campus

第52回 龍澤祭

輝くーそれぞれのテーマを胸にー

開催日 **10月27日(土)・28日(日)**

27日には、よしもとお笑いライブ開催!



ホームカミングデー

10月27日(土) 12:30 ~ オープニングセレモニー (受付12:00 ~)

12:50 ~ 【講演会】演題「一隅を照らす」ー淑徳の学びと実践ー

とごころ まりこ
講師 野老 真理子氏 (大里総合管理(株) 代表取締役社長)

13:50 ~ 【特別企画】「寮生放談」若樹寮VS雄飛寮

15:00 ~ 【懇親会】

東京 Campus

第55回 淑徳祭 ~つきかけ祭~

~世界で1番熱い秋~

開催日 **11月24日(土)・25日(日)**

ホームカミングデー

11月24日(土)

14:00 ~ 【講演会・懇親会】(受付13:30 ~)

※パラスポーツアスリートの方の講演を予定しています。

※画像はイメージですので、実物とは異なる場合がございます。



埼玉 Campus

第23回 淑徳祭

飛華繚乱 ~千二百本の花咲き誇れ~

開催日 **10月20日(土)・21日(日)**



ホームカミングデー

10月21日(日)

15:00 ~ 16:30 懇親会 (受付14:30 ~)

[同日企画]

13:00 ~ 13:30 淑徳大学同窓会 埼玉県支部総会

13:30 ~ 14:30 教育について語る会

編集後記

今春に入職しました、安田と申します。淑徳大学に勤めて早半年、あっという間に季節は秋になりました。

気候も良くなった秋はアクティブに過ごす方も多いのではないのでしょうか。学生時代の思い出ですが、友人と一緒に自転車でJR山手線1周を試みました。すると、高田馬場駅近くで「点字図書館」という看板を見つけ、「本は目で読むもの」という固定観念が崩されたことを覚えています。後日、図書館の見学もさせて頂き、視野が広がりました。

学生が主役の「Together」ですが、今号の特集記事は教員を取り上げました。各学部の先生から専門的な知識や長年の経験を活かして、皆様に伝えたい想いをまとめて頂きました。何か考えるきっかけ、刺激になると嬉しいです。今年も残り3か月ですが、読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋。皆様にとって実りある秋になりますように。(安田)

「淑徳大学広報誌」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしております! reply@soc.shukutoku.ac.jp

千葉キャンパス

総合福祉学部 コミュニティ政策学部 大学院 総合福祉研究科

〒260-8701 千葉県千葉市中央区大蔵寺町200

TEL: 043-265-7331

千葉第二キャンパス

看護栄養学部 大学院 看護学研究科

〒260-8703 千葉県千葉市中央区仁戸名町673

TEL: 043-305-1881

埼玉キャンパス

経営学部 教育学部

〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1

TEL: 049-274-1511

東京キャンパス

人文学部 淑徳大学短期大学部

〒174-0063 東京都板橋区前野町6-36-4

TEL: 03-3966-7631